

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187		
法人名	株式会社三協宮城		
事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ せせらぎユニット		
所在地	大崎市古川駅前大通六丁目3番8号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2022年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にして、町内会の行事に参加させて頂いたり、グループホームの行事に参加頂いたり日頃より地域との結びつきを大切にしています。平屋なので隣のユニットとも一緒にレクリエーションを楽しんでいます。又、今年度もコロナ感染症の為面会や地域との交流が中止になりましたが、スタッフの協力で利用者様と季節を感じながら過ごせるようにフロア内の飾り付けや行事を行なっております。訪問医師、訪問看護、訪問歯科による週1回の訪問で、健康管理を行っており安心して生活して頂いております。自分の出来る事をしながら、笑顔で過ごせる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念を基に、より具体的な理念「地域と共に笑顔の中でその人らしく」を掲げ、全職員で利用者が笑顔で暮らせるよう、様々な取り組みを行い日々のケアに活かしている。その一つは、利用者が楽しみにしている食事についてであり、残食割合を検討の上、より利用者に喜ばれる食事提供を目指し、調理済みの食事の仕入れを食材の仕入れに変更し職員が調理することにより、残食量が減り改善に繋がった取り組みである。「利用者にとって良いこと」を大切に思い、職員体制の限られた中で工夫し、あえて変更した結果、残食がほぼ無くなった。また、医療機関との連携では、協力医療機関が週1回、協力歯科医が月2回、訪問診療し、訪問看護師や歯科衛生士が週1回訪問して健康管理を行っている。こうした医療機関との連携により、利用者や家族の安心に繋がっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ ）「ユニット名 せせらぎ 」

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、意識するように心掛けています。全体会議時にも確認を行っています。	基本理念を基に、より具体的な事業所理念を4年前に作成しケアに活かしている。全体会議で唱和したり、運営推進会議議案書にも掲載し、常に意識できるよう努め、職員の理解を深めている。理念に沿って「入居者がその人らしく落ち着いて生活できるよう」介護計画にも活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事に参加したり、ホームでの行事に参加して頂いてる。2月以降はコロナ感染症の為地域交流は中止している。	町内会副会長が運営推進会議メンバーであり、地域との関係構築の要となっている。コロナ禍以前は利用者が町内会行事に参加したり、町内会メンバーに事業所行事を案内し交流していた。現在は、町内会が企画する花壇作りに協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行ない、地域や御家族様に参加頂き、認知症について理解して頂く機会があり、方法も伝えている。今年度は、書面にてホームの状況を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は奇数月に年6回書面にて運営推進会議を行っています。。日常や行事の様子など取り組みを報告している。返信にてご意見、御提案を頂いている。	コロナ禍のため書面による運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。事業報告と一緒に広報紙「オアシス新聞」を同封し、委員から意見を聞いている。事業所行事に関する意見が出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度の地域推進会議は書面にて包括支援センターの職員に参加頂いて報告している。北部保健福祉事務所 高齢者支援班に毎月5日までに入所状況調を報告している。	コロナ感染症対策として、感染予防に関する情報が市より届けられている。市主催のオンラインによる研修案内があり、事業所からは、空き室情報や、生活保護に関する情報の提供を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある利用者がある為、やもうえず玄関の施錠をしています。身体拘束については全体会議で勉強会を行っています。	3ヶ月毎に、全職員が参加し身体拘束適正化委員会を開催している。毎回テーマを決め勉強会も開催し、利用者の立場になって、スピーチロックや不適切なケアなどの身体拘束をしないケアの実践に繋げている。帰宅願望の強い利用者もあり、安全を考慮し、玄関にはセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に皮膚の状態をチェックしている。内出血を発見した際は必ず申し送りをしフィルム保護を行っています。予想される原因の分析を行い対応している。	身体拘束適正化委員会は、虐待防止委員会も兼ね開催している。委員会の議題では、虐待(身体的、心理的、ネグレクト、経済的等)について取り上げ、全職員で統一した理解を持てるよう努めている。年2回の面談や上司との相談体制等、職員の精神的負担を減らす取り組みも図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は社内研修を行い、共有している。推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に御家族へ説明を行っている。契約時に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、御家族様の来所の際はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。	家族会はあるが、コロナ禍のため開催できていない。家族からの意見は来訪時や介護計画送付時に聞いている。家族からの意見はユニット主任を通して職員全員で共有している。家族から「オアシス新聞で利用者の表情がわかり安心している」との感想があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見を聞く機会を設けており、管理者会議の中で報告している。	職員が参加する会議は、全体会議とユニット会議があり、毎月開催している。ユニット会議では利用者の状況について意見を出し合い確認し改善に繋げている。管理者と職員との面談が年2回設けられ、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価をし報告し見直しがある。キャリアアップ制度を設けている。職員一人一人が目標を設定し業務を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、リーダー、管理職等、段階的な研修の機会があり、積極的に研修に参加するように法人の方向性がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ感染症の為外部研修や交流を中止している。	コロナ禍のため、他事業所との交流は行われていない。法人内の他のグループホームとは運営の仕方や利用者へのケア方法等、事例の情報交換を行いケアの質の向上に繋げている。コロナ禍以前はグループホーム協議会で職員の交換研修等を行っていた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族様とコミュニケーションを充分に取っている。どのような生活を望まれるか把握し職員間で情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や質問があった際は職員間で共有し誰もが返答出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であり常に一方的にならず楽しい事、悲しい事を共有出来る様にしている 手伝いを行って頂いた際は必ず感謝の言葉を口にするよう心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や面会時に普段の様子を伝えどのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会は禁止となっています。	コロナ禍のため、自宅への帰宅支援は行っていない。家族との面会は、コロナ感染対策を徹底しながら、広い玄関ホールを使用し行うなど工夫しながら実施している。行ったことのある場所をテレビで鑑賞したり、家族について利用者と昔話をしている。3ヶ月毎に、訪問理容が来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、利用者様同士の関係性に目を向け、スタッフが介入し、席順等、利用者様同士が関われるような環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から本人の思いを汲み取る様に努めている。要望の多い物を優先に検討し、ケアに努めている。	新聞広告やテレビを見ながらなど、日常の関わりの中で、利用者の思いや希望等を把握している。思いを伝えにくい利用者からは家族からの情報や、表情や身振り、つぶやきなどから把握に努めている。思いや意向は「業務日誌」や「生活記録」に記入し、職員間で情報共有している。出来るだけ自分で着るものを選ぶよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や、御家族様との会話の中でこれまでの生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄表を生活記録に記入している。変化や気づきがあれば朝・夕の申し送りで共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを検討していく中で課題があった場合には御家族様や関係者に報告し、話し合い現状に即した介護計画になるようにしている。	介護計画作成は、本人や家族から意向を聞き反映している。入居当初は先ず事業所に慣れることを重点に取り組んでいる。モニタリングは3ヶ月毎に、介護計画の見直しは半年に1回行っている。また、利用者の状態変化に応じ都度見直している。見直し後は家族から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りにてスタッフ間で情報の共有をし、介護の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう努めている。関連業者(レンタル事業)の活用に関心している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症の為行事へのボランティアの方の参加、町内会の行事への参加は無いが、訪問美容院による、ヘアカットを行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、ご家族協力のもと、受診対応も行っている。ほとんどの入居者はホームに週1回往診に来ているドクターが診ている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医療機関の往診医が週1回訪問診療に来訪し、ほとんどの入居者がこの往診医をかかりつけ医としている。また、訪問看護師、歯科衛生士が週1回、歯科医は2週毎に来訪している。家族付き添いでかかりつけ医を受診する場合は、利用者の状態について情報提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て診ている。夜間やその他の時間は電話対応や時には時間外で訪問してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者様の状態について情報を提供している。又、入院の際は電話連絡等でご家族様から現状や今後について話を聞いている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際はご家族に説明するようにしている。往診医に報告、相談している。	「医療連携体制(看取り)に関する指針」を成文化している。指針は重度化した際に家族に説明を行っている。看取りに入った際には医師から家族に説明し、対応方針を決めている。必要に応じ医師の特別指示書に基づき、家族が訪問看護師と契約している。新人職員に対しては、夜間体制を組む際に配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の避難訓練を行っている。事務所に防災無線受診機設置している。水害については避難場所の確認を行っています。	事業所は平屋造りのため、平面移動を考慮した避難訓練を年2回行っている。内、1回は夜間想定訓練を行っているが、コロナ禍のため、地域住民の参加はしていない。火災、風水害、地震対応マニュアルが作成され、職員はハザードマップも併せて情報共有している。設備点検は年2回業者が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性をスタッフが把握し呼び方や言葉遣いに注意している。	権利擁護に関する勉強会を行い、利用者一人ひとりの尊重とプライバシー確保に努めている。利用者の尊厳を守る気持ちが欠けることが、日々のケアで発生するスピーチロックに繋がることもあるなど、具体的な事例を上げ研修を行うことで、利用者への影響、言葉遣い等について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、自己決定が出来る様に選択肢を活用した会話を実践している。入浴時の衣類を決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、ご本人のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや腕時計など利用者の好む物を自由に身に付けてもらっている。散髪は定期的に訪問の床屋さんを利用している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼり作りや下膳の手伝いをしている。	利用者の残食量について検討し、調理済みの食事の仕入れを見直し、食材を仕入れ職員が手作りすることにした。これにより残食が減り、排便も改善された。コロナ禍で外食が難しい状況であるが、流しそうめん、スイカ割り、パフェ・ケーキ作りなど、みんなで楽しめる企画や演出を行い、利用者の食の楽しみを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の好みや嚥下に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。1人1人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。週1回の訪問歯科を利用し磨き方の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。食後のトイレ誘導、個々の排泄パターンに合わせた誘導・パットを検討し、対応している。	利用者の生活記録から排泄パターンを把握している。声掛けや、誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。介助は羞恥心に配慮し「さりげなく」を心掛けている。便秘対策として食事や水分摂取量を状態に合わせ考慮したり、医師の処方薬や座薬を使う利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が困難で下剤を服用している方もいるが、トイレ誘導時、腹部マッサージを行うことで排便が見られている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく、本人の希望に合わせているが週に2～3回は入浴出来る様に配慮している。時間帯に関しては希望に添えていない。	週2回を基本に、午前と午後に入浴支援を行っている。車イスを利用する人には、安全に安心して入れるよう2人体制で介助支援をしている。入浴剤を使用し入浴が楽しめるようにもしている。入浴を嫌がる場合は、無理強いせず時間帯を変えたり、一人ひとりに合わせ工夫し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、自由に休息を取っていただいている。無理に休んで頂いたり起こしたりする事が無い様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については各利用者ごとの薬の種類や目的・用量・用法の処方一覧を個人記録にとじ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った支援を行っている。洗濯物たたみ、エプロンたたみなど日課にされている方もいる。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為、買い物、町内会の行事へ参加していない。車に乗ったままで桜を見にドライブ行っています。敷地内での芋煮会を行っています。	コロナ禍のため事業所としての外出は自粛しており、家族の協力を得て、ドライブや通院を行っている。事業所の敷地内を散歩したり、玄関付近で外気浴をしている。行事は基本、ユニット毎に企画し開催しているが、敬老会やクリスマス会は合同企画で一緒に開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者トラブルになりかけた事も有りご家族様に説明し、ご家族様に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマートフォンを持っている方もいる。自由にご家族様や友人に電話している。手紙は受け取りのみになっているが本人に読み聞かせている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、掲示物は毎月、一部の利用者に手伝ってもらいながら、作り変えている。エアコン・加湿器を使用し、居心地の良い空間作りを心掛けている。毎朝の掃除、空気の入替えにも気を付けている。	リビングのコンセプトは「利用者が落ちつける場所」である。大きな時計、職員手作りの日めくりカレンダーが見当識に配慮されている。利用者と正月飾りを手作りするなど、季節を感じることができる作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも配慮し、いつも1人1人が、快適に過ごせる様に席替え・テーブルの配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、馴染みの品々を身近に置く事により、落ち着いた毎日を過ごして頂いている。テレビや座布団などを持ち込んでいる。	居室と自宅とのギャップができるだけ感じないよう努め、家族が持ち込んだもの置いている。居室の入り口には名前が表示されている。利用者が「私の部屋」と感じてもらえるように取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者様の身体状況に合わせている。居室やトイレには迷わない様に名前を貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187		
法人名	株式会社三協宮城		
事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ そよかぜユニット		
所在地	大崎市古川駅前大通六丁目3番8号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2022年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にして、町内会の行事に参加させて頂いたり、グループホームの行事に参加頂いたり日頃より地域との結びつきを大切にしています。平屋なので隣のユニットとも一緒にレクリエーションを楽しんでおります。又、今年度もコロナ感染症の為面会や地域との交流が中止になりましたが、スタッフの協力で利用者様と季節を感じながら過ごせるようにフロア内の飾り付けや行事を行なっております。訪問医師、訪問看護、訪問歯科による週1回の訪問で、健康管理を行っており安心して生活して頂いております。自分の出来る事をしながら、笑顔で過ごせる施設です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念を基に、より具体的な理念「地域と共に笑顔の中でその人らしく」を掲げ、全職員で利用者が笑顔で暮らせるよう、様々な取組みを行い日々のケアに活かしている。その一つは、利用者が楽しみにしている食事についてであり、残食割合を検討の上、より利用者に喜ばれる食事提供を目指し、調理済みの食事の仕入れを食材の仕入れに変更し職員が調理することにより、残食量が減り改善に繋がった取組みである。「利用者にとって良いこと」を大切に思い、職員体制の限られた中で工夫し、あえて変更した結果、残食がほぼ無くなった。また、医療機関との連携では、協力医療機関が週1回、協力歯科医が月2回、訪問診療し、訪問看護師や歯科衛生士が週1回訪問して健康管理を行っている。こうした医療機関との連携により、利用者や家族の安心に繋がっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ ）「ユニット名 そよかぜ 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内の常に目に入る場所に掲示し、全体ミーティングにて確認し、日頃から意識を高める様にしている・	基本理念を基に、より具体的な事業所理念を4年前に作成しケアに活かしている。全体会議で唱和したり、運営推進会議議案書にも掲載し、常に意識できるよう努め、職員の理解を深めている。理念に沿って「入居者がその人らしく落ち着いて生活できるよう」介護計画にも活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事に参加したり、ホームでの行事に参加して頂いてる。2月以降はコロナ感染症の為地域交流は中止している。	町内会副会長が運営推進会議メンバーであり、地域との関係構築の要となっている。コロナ禍以前は利用者が町内会行事に参加したり、町内会メンバーに事業所行事を案内し交流していた。現在は、町内会が企画する花壇作りに協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行ない、地域や御家族様に参加頂き、認知症について理解して頂く機会があり、方法も伝えている。今年度は、書面にてホームの状況を伝えている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は奇数月に年6回書面にて運営推進会議を行っています。。日常や行事の様子など取り組みを報告している。返信にてご意見、御提案を頂いている。	コロナ禍のため書面による運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。事業報告と一緒に広報紙「オアシス新聞」を同封し、委員から意見を聞いている。事業所行事に関する意見が出された。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度の地域推進会議は書面にて包括支援センターの職員に参加頂いて報告している。北部保健福祉事務所 高齢者支援班に毎月5日までに入所状況調を報告している。	コロナ感染症対策として、感染予防に関する情報が市より届けられている。市主催のオンラインによる研修案内があり、事業所からは、空き室情報や、生活保護に関する情報の提供を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて職員が理解し取り組んでいる。徘徊のある方には、見守りを重視し、一緒に散歩したり、隣のユニットに訪問する等の対応をしている。	3ヶ月毎に、全職員が参加し身体拘束適正化委員会を開催している。毎回テーマを決め勉強会も開催し、利用者の立場になって、スピーチロックや不適切なケアなどの身体拘束をしないケアの実践に繋げている。帰宅願望の強い利用者もあり、安全を考慮し、玄関にはセンサーを設置している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などには、皮膚の状態をみて、その日の出勤者に確認してもらったり、転倒に注意している。	身体拘束適正化委員会は、虐待防止委員会も兼ね開催している。委員会の議題では、虐待(身体的、心理的、ネグレクト、経済的等)について取り上げ、全職員で統一した理解を持てるよう努めている。年2回の面談や上司との相談体制等、職員の精神的負担を減らす取組みも図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は社内研修を行い、共有している。推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に御家族へ説明を行っている。契約時に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、御家族様の来所の際はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。	家族会はあるが、コロナ禍のため開催できていない。家族からの意見は来訪時や介護計画送付時に聞いている。家族からの意見はユニット主任を通して職員全員で共有している。家族から「オアシス新聞で利用者の表情がわかり安心している」との感想があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見を聞く機会を設けており、管理者会議の中で報告している。	職員が参加する会議は、全体会議とユニット会議があり、毎月開催している。ユニット会議では利用者の状況について意見を出し合い確認し改善に繋げている。管理者と職員との面談が年2回設けられ、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価をし報告し見直しがある。キャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、リーダー、管理職等、段階的な研修の機会があり、積極的に研修に参加するように法人の方向性がある。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ感染症の為外部研修や交流を中止している。	コロナ禍のため、他事業所との交流は行われていない。法人内の他のグループホームとは運営の仕方や利用者へのケア方法等、事例の情報交換を行いケアの質の向上に繋げている。コロナ禍以前はグループホーム協議会で職員の交換研修等を行っていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込の時点で情報を元に、ご本人様が不安にならないような対応が出来るよう留意している。特に入所後は環境が大きく変わるので、できるだけ、関わる時を持つ様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が抱えている不安や悩みに耳を傾け、可能な限り理解して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として共に暮らす家族として楽しい事悲しい事を共有出来るような関係作りにつとめている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や面会時に普段の様子を伝えどのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会は禁止となっています。	コロナ禍のため、自宅への帰宅支援は行っていない。家族との面会は、コロナ感染対策を徹底しながら、広い玄関ホールを使用し行うなど工夫しながら実施している。行ったことのある場所をテレビで鑑賞したり、家族について利用者と昔話をしている。3ヶ月毎に、訪問理容が来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、利用者様同士の関係性に目を向け、スタッフが介入し、席順等、利用者様同士が関われるような環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、その様な状況は無いが関係の継続については、重要性を十分認識しており、その様な状況があれば実施する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から本人の思いを汲み取る様に努めている。要望の多い物を優先に検討し、ケアに努めている。	新聞広告やテレビを見ながらなど、日常の関わりの中で、利用者の思いや希望等を把握している。思いを伝えにくい利用者からは家族からの情報や、表情や身振り、つぶやきなどから把握に努めている。思いや意向は「業務日誌」や「生活記録」に記入し、職員間で情報共有している。出来るだけ自分で着るものを選べるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や、御家族様から生活歴やサービス利用歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄表を生活記録に記入している。変化や気付きがあれば朝・夕の申し送りで共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを検討していく中で課題があった場合には御家族様や関係者に報告し、話し合い現状に即した介護計画になるようにしている。	介護計画作成は、本人や家族から意向を聞き反映している。入居当初は先ず事業所に慣れることを重点に取り組んでいる。モニタリングは3ヶ月毎に、介護計画の見直しは半年に1回行っている。また、利用者の状態変化に応じ都度見直している。見直し後は家族から同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りにてスタッフ間で情報の共有をし、介護の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に対応出来るよう常に職員同士で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症の為行事へのボランティアの方の参加、町内会の行事への参加は無いが、訪問美容院による、ヘアカットと本人希望の毛染めを行う。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、ご家族協力のもと、受診対応も行っている。ほとんどの入居者はホームに週1回往診に来ているドクターが診ている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。協力医療機関の往診医が週1回訪問診療に来訪し、ほとんどの入居者がこの往診医をかかりつけ医としている。また、訪問看護師、歯科衛生士が週1回、歯科医は2週毎に来訪している。家族付き添いでかかりつけ医を受診する場合は、利用者の状態について情報提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師に状態を報告し、その状態に合わせた指示を頂き支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者様の状態について情報を提供している。又、入院の際は電話連絡等でナースや主治医から現状や今後について話を聞いている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際はご家族に説明するようにしている。往診医に報告、相談している。	「医療連携体制(看取り)に関する指針」を成文化している。指針は重度化した際に家族に説明を行っている。看取りに入った際には医師から家族に説明し、対応方針を決めている。必要に応じ医師の特別指示書に基づき、家族が訪問看護師と契約している。新人職員に対しては、夜間体制を組む際に配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の避難訓練を行っている。事務所に防災無線受診機設置している。水害については避難場所の確認を行っています。	事業所は平屋造りのため、平面移動を考慮した避難訓練を年2回行っている。内、1回は夜間想定訓練を行っているが、コロナ禍のため、地域住民の参加はしていない。火災、風水害、地震対応マニュアルが作成され、職員はハザードマップも併せて情報共有している。設備点検は年2回業者が行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への呼びかけは主に「～さん」で行っています。又、個人情報のある記録の記入には、配慮している。	権利擁護に関する勉強会を行い、利用者一人ひとりの尊重とプライバシー確保に努めている。利用者の尊厳を守る気持ちが欠けることが、日々のケアで発生するスピーチロックに繋がることもあるなど、具体的な事例を上げ研修を行うことで、利用者への影響、言葉遣い等について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、本人の思いを聞き取り自己決定が出来る様に選択肢を活用した会話を実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに合わせ希望に沿う様個別性のある支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人に合わせ、好みを取り入れ着たい洋服が着れる様に支援を行う様に努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを書いて頂いたり、おしぼりを丸めたり、食器拭きを手伝って頂いている。	利用者の残食量について検討し、調理済みの食事の仕入れを見直し、食材を仕入れ職員が手作りすることにした。これにより残食が減り、排便も改善された。コロナ禍で外食が難しい状況であるが、流しそうめん、スイカ割り、パフェ・ケーキ作りなど、みんなで楽しめる企画や演出を行い、利用者の食の楽しみを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取や水分量は、毎日チェックし食べやすい状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。1人1人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。週1回の訪問歯科を利用し磨き方の指導を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の確認を行い、出来るだけスキントラブルにならない様に、トイレでの排泄を促し誘導を行っています。	利用者の生活記録から排泄パターンを把握している。声掛けや、誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。介助は羞恥心に配慮し「さりげなく」を心掛けている。便秘対策として食事や水分摂取量を状態に合わせ考慮したり、医師の処方薬や座薬を使う利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物や発酵食品等であるべく下剤を使用しない様に努めている。自然排便の困難な方もあり往診医と相談しながら下剤でコントロールしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく、本人の希望に合わせているが週に2回は入浴出来る様に配慮し、清潔でいられる様にしている。又、入浴剤を使用し気分転換を図っている。	週2回を基本に、午前と午後に入浴支援を行っている。車イスを利用する人には、安全に安心して入れるよう2人体制で介助支援をしている。入浴剤を使用し入浴が楽しめるようにもしている。入浴を嫌がる場合は、無理強いせず時間帯を変えたり、一人ひとりに合わせ工夫し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の体調や意向に沿って休息をとって頂いたり、外気浴や入浴を行い気持ち良く休んで頂ける様に努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については各利用者ごとの薬の種類や目的・用量・用法の処方一覧を個人記録にとじ共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態、趣味等を考慮し御本人のペースで、縫い物や、洗濯物たたみ等して頂き、役に立っているという喜びを持って頂く。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為、買い物、町内会の行事へ参加していない。車に乗ったままで桜を見にドライブ行っています。敷地内での芋煮会を行っています。	コロナ禍のため事業所としての外出は自粛しており、家族の協力を得て、ドライブや通院を行っている。事業所の敷地内を散歩したり、玄関付近で外気浴をしている。行事は基本、ユニット毎に企画し開催しているが、敬老会やクリスマス会は合同企画で一緒に開催している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は受け取りのみになっているが本人に読み聞かせている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、掲示物は毎月、作り変えている。エアコン・加湿器を使用し、居心地の良い空間作りを心掛けている。毎朝の空気の入替えにも気を付けている。	リビングのコンセプトは「利用者が落ちつける場所」である。大きな時計、職員手作りの日めくりカレンダーが見当識に配慮されている。利用者と正月飾りを手作りするなど、季節を感じることができる作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも配慮し、いつも1人1人が、快適に過ごせる様に席替え・テーブルの配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、馴染みの品々を身近に置く事により、落ち着いた毎日を過ごして頂いている。テレビや座布団などを置くことで「私の部屋」と、話されている。	居室と自宅とのギャップができるだけ感じないよう努め、家族が持ち込んだもの置いている。居室の入り口には名前が表示されている。利用者が「私の部屋」と感じてもらえるように取組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でトイレ、居室に行かれても、迷わない様に名前の表記を行っています。		